

福岡・大手町遺跡（小倉城外堀跡）

をもち、内側に「土居」をめぐらし、隅角部に瓦葺きの櫓が配され、さらに内側は空地となり侍町が続く。

1 所在地 福岡県北九州市小倉北区大手町
2 調査期間 一〇〇四年（平16）四月～一〇月
3 発掘機関 (財)北九州市芸術文化振興財団
4 調査担当者 前田義人・梅崎恵司

5 遺跡の種類 城郭跡・堀跡
6 遺跡の年代 近世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大手町遺跡（小倉城外堀跡）は、響灘に注ぐ紫川の左岸、勝山丘陵上に位置し、標高一mに立地する。細川忠興により慶長七年（一六〇一）に築かれた豊前小倉城の南端外堀にあたる。調査区は清水口門と篠崎口門に通じる堀である。正保四年（一六四七）の絵図によると、堀は「幅八間深七尺」の規模

が確認されたのは九州では初めてである。木簡は、障子が埋め戻された後に、堀外壁に堆積した赤褐色粘質土から、陶磁器類とともに一点が出土した。共伴遺物は一七世紀後半から一八世紀にかけてのものである。

8 木簡の釁文・内容

(1) 「ちはや村」

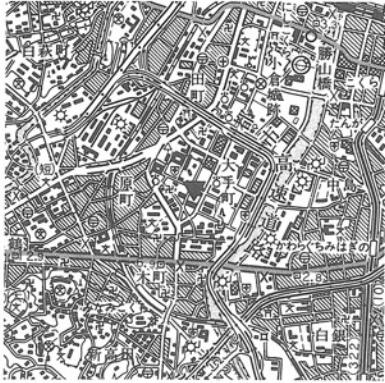
・「□ □」

96×20×5 051

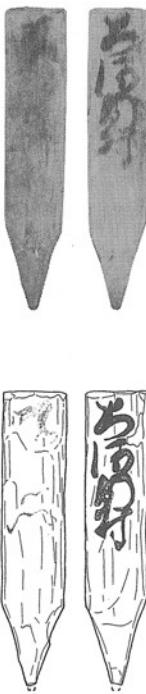
上端は面取りされ完形。荷札として利用されたのか下端が尖つている。表面の「ちはや村」の詳細は不明。裏面には二ヵ所に墨痕が認められるが、判読できない。

9 関係文献

(財)北九州市芸術文化振興財団「大手町遺跡（小倉城外堀跡）」（財）北九州市埋蔵文化財調査報告書三七一（一〇〇七年）
(前田義人)



(小倉)



（小倉）